



葉ずれの音、いろいろな虫の匂いや歩く音、トリの声もするだろう。しかしそれらのほとんどすべては、ダニにとって意味をもたない。

ダニを取り囲んでいる巨大な環境の中で、哺乳類の体から発する匂いとその体温と皮膚の接触刺激という三つだけが、ダニにとって意味をもつ。いふなれば、ダニにとっての世界はこの三つのものだけで構成されているのである。

これがダニにとってのみすばらしい世界であると、ユクスキユルはいう。そしてダニの世界のこのみすばらしさこそ、ダニの行動の現実さを約束するものである。ダニが生きていくためには、

3

より現実さのほうが大切なのだとユクスキユルは考えた。

**A**、それぞれの動物、それぞれ主体となる動物は、まわりの環境の中から、自分にとって意味のあるものを認識し、その意味のあるもので、自分たちの世界を構築しているのだ。

**B**、イモムシであれば、今、自分が乗っている葉は、自分が食べるべき植物である。したがって、その存在は重要な意味をもつものと認識されている。しかし、そのほかの植物はこのイモムシにとって意味がない。食べられるものではないからである。そしてそれ以外に空気とかいうものは何ら認識する意味はない。結局、その葉っぱというものにだけ意味があるのであって、他のものは存在していないに等しい。

**C**、イモムシにもやはり敵がいる。ハチとかがこのイモムシを食べにくる。それは彼らにとって意味がある。そういうものがきたとき、彼らが落とす影や彼らの翅の動きが起こり、その空気の動きにイモムシたちが重大な意味を与えている。それは何ということのない、そよ風が起こす空気の動きとはちがい、自分の命にかかわるものである。そのような意味をもつ空気の動きに対しては、彼らは身体をくねらせて逃げようとする。

D

地面に落ちる。そうやって敵を避けようとする。

そういう意味のある存在を彼らは認識できるようになっている。

彼らの世界はほとんどこれらのものから成り立っている。たとえば、美しい花が咲いていようと、それは彼らにとっては意

味がない。食物としても敵としても意味のないそのようなものは、彼らの世界の中に存在しないのである。彼らにとって大切なのは、客観的な環境といわれているようなものではなくて、彼らという主体、この場合にはイモムシが、意味を与え、構築している世界なのである。

それが大事なのだと、ユクスキユルはいう。ユクスキユルはこの世界のことを「**4** 環世界」、ウムヴェルトと呼んだ。ウムは周りの、ヴェルトは世界である。つまり、彼らの周りの世界、ただ取り囲んでいるというのではなくて、彼ら主体が意味を与えた世界なのであるということ、ユクスキユルは主張した。

したがって、客観的環境というようなのは、存在しないことになる。それぞれの動物が、主体として、周りの事物に意味を与え、それによって自分たちの世界を構築しているのである。そして、彼らにとって存在するのは、彼らの環世界であり、彼らにとって意味のあるのはその世界なのであるから、一般的な、客観的環境というものは存在しない。つまり、いわゆる環境というものは、主体の動物が違えばみな違った世界になるのだというのである。

…(中略)…

動物が生きているのは、彼らの環世界の中であって、意味のない客観的な環境の中で生きているのではない。これが、ユクスキユルの「環世界論」である。

**5** この環世界論は、彼がこの説を唱え始めた一九三〇年代には、ほとんど評価されなかった。ユクスキユルは動物学者、つま

り科学者のはずである。その当時の科学は、**※**唯物論的に物を見なくてはならないということになっていた。つまり、この世の中にはいろいろなものが実際に存在している。そして、その存在しているものをわれわれが認めるものである。そうでなければ、科学はできない。

この反対の **b** 極地と簡単にいつてしまえば、たぶん、**※**カントの **※**唯心論であろう。カントによれば、われわれが認めたものが存在することになる。しかし、それでは科学はできない。だから科学はカント的であってはならないのであって、唯物論

的でなければならない。それがその当時の一般的な流れであった。

その中でユクスキュルは、主体が認めたものによって構築された世界にこそ意味があると言ったのである。これはまったく唯物論的ではなく、きわめてカント的である。だから、こういう方法で科学は進むことができない、われわれはそういう形で科学をやることはできないという反感をみんなが抱いた。そのためユクスキュルは結局、動物学者でありながら、大学の※正規の先生にはならずに終わった。

しかし、その後もずっと、こういう見方をしなければ、われわれには生物の世界はわからないのではないかという疑問はあったし、そのように思っている人は絶えずいた。

とくに※動物行動学ではこれは重大な問題であった。動物たちはみな何らかの行動をしている。何のためにそのような行動をしているのか、どのような仕組みで行動しているのかを考えていくときに、その動物が何を認識し、世界をどういうふう構築しているかということを考えなければ、われわれはその動物のやっていることは理解できないはずである。そこで、ユクスキュルの環世界論が、だんだんに重い意味を持つようになってきた。

※ユクスキュル：ドイツの動物学者。

※生物学：生物を研究する学問。

※独和辞典：ドイツ語の意味や使い方を日本語で解説した辞典。

※自然科学：自然界に起きることを調べ、その法則を明らかにする学問。

※オーソドックス：昔から正しいとされてきたもの。

※定義：はつきりと決めた言葉の意味や内容。

※クリサート：ユクスキュルと共に研究をした動物学者。

※温血動物：体温がほぼ一定している動物。

※灌木：枝がむらがり生える樹木。低木の古い言い方。

※酪酸：脂肪をつくるもの。不快なおいをもつ。

※プロセス：物事が進んでいく道筋。

※生理学：生物学の一つ。体のはたらきを研究する学問。

※主体：自らの意思で行動するもの。

※唯物論：世界は物質が中心で、それによってできあがっているとする考え。

※カント：ドイツの学者。

※唯心論：世界は心や精神が中心で、それによってできあがっているとする考え。

※正規の先生：正式に採用されている先生。

※動物行動学：動物の行動の意味や役割を研究する学問。

問1 線 a 「次」・ b 「極地」の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 

|   |
|---|
| A |
| D |

 に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

|   |   |     |   |      |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|------|---|-----|---|------|
| ア | A | そして | B | ところで | C | しかし | D | あるいは |
| イ | A | そして | B | ところで | C | しかし | D | ところが |
| ウ | A | そして | B | たとえば | C | また  | D | あるいは |
| エ | A | つまり | B | たとえば | C | しかし | D | あるいは |
| オ | A | つまり | B | たとえば | C | また  | D | ところが |

問3 線1 「こういう認識」とあるが、それはどういう考え方のことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 環境とは、生き物が生きていくために必要なものであり、空気や植物を中心とするものであるという考え方。
- イ 環境とは、生き物の生活に深く関係しており、様々な言語に言い換えられるものであるという考え方。
- ウ 環境とは、生き物の周囲にあるものであり、すべて数字や言葉で言い表せるものであるという考え方。
- エ 環境とは、生き物の周りに存在するものであり、種類が多く特定できないものであるという考え方。
- オ 環境とは、生き物の生活に必要なものであり、一定の温度や湿度が保たれているものであるという考え方。

問4 — 線2「ダニは機械ではなくて、機関士なのである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ダニは、哺乳類の体から発する匂いや皮膚の接触などの刺激に対して、自ら進んで反応しているのではなく、いつもただ同じ反射行動をしているということ。
- イ ダニは、哺乳類の体から発する匂いや皮膚の接触などの刺激に対して、全身の感覚で反応をしているのではなく、一部の感覚のみで反応しているということ。
- ウ ダニは、哺乳類の体から発する匂いや皮膚の接触などの刺激に対して、ただ反射行動をしているのではなく、自ら一つ一つの刺激を作り出しているということ。
- エ ダニは、哺乳類の体から発する匂いや皮膚の接触などの刺激に対して、必要な刺激に反応しているのではなく、周囲のあらゆる刺激に反応しているということ。
- オ ダニは、哺乳類の体から発する匂いや皮膚の接触などの刺激に対して、ただ反射的に行動しているのではなく、必要な刺激に自ら反応しているということ。

問5

3

に入る最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 美しさ    イ 豊かさ    ウ 明るさ    エ 危<sup>あや</sup>うさ    オ 広大さ

問6

— 線4「環世界」とあるが、それはどういう世界か。筆者の考えをふまえて40字以内で説明しなさい。

## 問7

——線5「この環世界論は、彼がこの説を唱え始めた一九三〇年代には、ほとんど評価されなかった」とあるが、「環世界論」が評価されなかったのはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人々の生活を取り囲むものに注目しているユクスキュルの考え方は、生活の中で人々が認めるものに注目していた科学の考え方と違うため、科学の進展を止めることになるから。
- イ 動物が認めるものはわかるはずだというユクスキュルの考え方は、動物が認めるものは決してわからないという科学の考え方と反対であるため、科学の進展につながらなかったから。
- ウ 動物が認めることによってその動物の世界が存在しているというユクスキュルの考え方は、もともと存在しているものを人々が認めるという科学の考え方と違うため、科学の発展を止めることになるから。
- エ 動物の細かな行動にあまり注目していなかったユクスキュルの考え方は、動物の行動には一つ一つ意味があるはずだという科学の考え方と反対であるため、科学の進歩につながらなかったから。
- オ 動物の行動はわからないというユクスキュルの考え方は、動物の行動は理解できないという科学の考え方と重なってしまったため、科学の進展につながらなかったから。

二次の文章は、額賀澤『ヒトリコ』の一部である。深作日都子は小学五年生の時、クラスの金魚を殺したという誤解を受けて以来、いじめの対象になっている。現在、中学三年生になった日都子のクラスでは文化祭で行われる合唱コンクールに向けての練習が進んでいる。以下の文章はそれに続く部分である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題に際して、本文には表記を一部変えたところがある。

片岡さんの前に並ぶ二十五人のクラスメイト。中には普段仲良くしている友人もいるのに、合唱となると話が変わる。合唱委員は、というより、片岡さんがクラスの王様になる。それ以外の生徒は、その命令に従う平民。平民以下の子だって、いる。「三列目の人は声が出ない病気か何かですか？ 普段は友達と大声でおしゃべりするくせに、どうして合唱のときは声が出ないんですか？ やる気がないんですか？ 答えてください」

当然ながら、答える子はいない。男子も女子も、①俯いたり、素知らぬ顔で全く別の方向を見たりしている。「やる気がないなら帰っていいですよ。ほら、帰ってください。石川君、帰っていいんですよ。新堀さんも帰っていいですよ」淡々と、怒る。そして②相手を切りつけるような酷い単語を口にする。金切り声で怒鳴られるのも嫌だけれど、こういうのもじわじわと首を絞められるようで、気分が悪い。言われている方も、聞かされている方も。

③歌わないのに帰りに帰りたいというのは、どういうことですか。私には意味がわかりません」名目上は片岡さんと堀越君とで三年二組の合唱委員なのだけれど、いつもこうやって片岡さんが練習を先導する。彼女も堀越君のことなど何一つ頼りにしてないようだ。

「一列目と二列目はこのままパート練習で、三列目は廊下で一人ずつ歌ってもらいます。そうすれば、誰が悪いかわかります。端っこの人から、廊下に出てください」

日都子の隣から「うへえ」という声が漏れた。多分、日都子にしか聞こえなかっただろう。声の主は山野さんだ。山野智代。

小学五年生の秋までは、毎日一緒におしゃべりを楽しんだ仲だった。

「端っこから、廊下に出てください」

片岡さんはそう言って、一番端っこに立つ日都子を指さした。手が届くのなら、自分を指さすその手をペシンと叩き落としてやりたい。

さすがに実行することはなく、楽譜を持って大人しく廊下に出た。初めはさすがに戸惑ったけれど、この処置も二度目だ。

1 普段、限りなくゼロに近くしている心のスイッチを、切る。

廊下に片岡さんが椅子とCDプレーヤーを出し、彼女は椅子に腰掛ける。

④ 足を組んだ。自分のことを、召使いを

前にしたご主人様だとも思っているんだろう。

彼女の指がプレーヤーの再生ボタンを押し、ピアノの伴奏が流れる。

「はい、歌って」

今年の文化祭で三年二組が歌うのは『心の瞳』という合唱曲だ。愛と絆をテーマにした歌。家族や友人や恋人へ、年をとっても変わらない愛を謳った歌。

2 三年二組にとって、はなはだ不釣り合いな歌。

『心の瞳で 君を見つめれば

愛すること それが

どんなことだか わかりかけてきた』

頭の中に思い描くんだよ。長い冬が終わって春が来るのを。草木が春の日をアびる。花が咲く。動物や虫が飛び回る――。

※キュー婆ちゃんは※『春の歌』をそうやって弾けと日都子に言った。春を思い描け。喜びを表現しろ。なら『心の瞳』で思い描くべきなのはきっと、愛であり絆はずだ。大切な友人だったり、恋人だったり。家族だったり。一体、クラスのうちの

何人がそれを理解しているのだろう。日都子の歌を聴いている片岡さんは、愛を歌っているのだろうか。その脳裏に浮かんでいるのは、合唱コンクールでユウシヨウすることだけなんじゃないのか。

最後の歌詞を歌い終えた瞬間に、片岡さんはプレーヤーを停止させる。そして普段友達と話しているときとは全く違う低い声で、こう言った。

「七十点」

手にしていたルーズリーフに点数を書き込む。クラスメイトの成績表だ。

「もっと大きな声で歌えば、二列目に行けるのに。どうして真面目に歌わないの」

納得いかないという顔で、片岡さんは日都子を見る。

「大きな声を出すと、音ははずしちゃうの」

大嘘だ。

「音ははずすくらいなら、きちんと音を取って歌いたいから」

「練習不足なんだよ。練習が足りない。お腹から声を出してしっかり練習すれば、ちゃんと声を出しても音程が合うもの」

ほら、と言って、片岡さんは自分の腹に手を当て、甲高い裏声を出してみせた。廊下の先の教室、階下にも響き渡るような綺麗な声だった。音量も申し分ない。

「練習すればこれくらい出せるんだから。ちゃんと、真面目に、練習してください」

あなたも真似してやってみてとばかりにもう一度腹に手をやった。鼻で笑いたいのを我慢して、日都子は楽譜を両手で握った。

「私、ピアノの練習もあるし。平塚さんみたいに上手じゃないから、ちゃんと練習しておかないと、いざつとときに全然弾けないかもしれないし」

日都子は補欠伴奏者という役目を与えられた。平塚さんは一度風邪を引くと何日も学校を休むから、そんなときに代打で弾

くのだ。幸いなことに、平塚さんは今のところ一度も学校を休んでいない。どうかこのまま文化祭まで上手くやってほしい。私の力量不足でごめんなさい。そんな空気を全力で醸し出す。練習したいのもやまやまだけど、ピアノの伴奏をいつやれと言われるかわからないし。そのときのために練習もちゃんとしないといけないし。

ちゃんと歌えと言われて、「すいませーん」と言葉だけで謝った荒張君や鈴木君と一緒に。腹の中では（X）を出している。けれど彼らに比べれば、ずっと上手に誤魔化せていると思う。去年も一昨年も、合唱の練習はそうやって乗り切ってきた。3 心から、ピアノを選んでよかったと思う。

「本当、平塚にも困ったもんだよ。いつ休むかわかんないんだから」

普段は藍ちゃんと呼ぶくせに。

「でも、だからって深作さんがサボっていい口実にはならないんだから。ちゃんと練習してください」

「はい。すみませんでした」

言葉だけの謝罪をして、頭を軽く下げる。片岡さんは病弱な平塚さんのことを合唱の練習期間中だけは煩わしいと思っているようで、日都子への当たりは最小限のものとなる。補欠として伴奏も歌も適度に練習しておけばいいのだから、いいこと尽くめだ。

「あとさ」

ルーズリーフを膝の上に置いて、片岡さんは声を少し小さくした。廊下を歩く人に聞こえないよう、細心の注意を払って。

「私達の文句言ってる奴とか、合唱やりたくないとか言ってる奴、いる？」

「どういふこと」

私達って、誰のこと。前日も前々日もされた質問。さも初めて聞きましたという顔で、日都子は答える。

「みんなが頑張ろうってやってるのに、その和を乱すような奴を見たり聞いたりしてないかってことだよ」

ホント馬鹿だね。こんなこともわからないなんて。そんな目で見られた。

「さあ。私、ヒトリコだし」

いつも一人にいる日都子のことを、みんな陰でヒトリコと呼ぶ。呼ばれ出したのは多分、中学一年生のとき。

・どうしてあの子はいつも一人なの。日都子じゃなくて、ヒトリコだね。そんな会話からヒトリコは生まれた。ヒトリコ、今日も一人だよ。ヒトリコ、遠足でこの班にも入れてもらえないみたい。ヒトリコさん、修学旅行とかどうするんだろう。

だが不思議と、日都子はヒトリコという称号が妙に誇らしく思えるのだ。

みんなの輪というのが合唱のような形をいうのなら、自ら孤独を選択しようじゃないか。その姿は決して、愚かではないはずだ。

「そういうお話、する友達もないから。片岡さんに教えられることもないな」

片岡さんも日都子のことをヒトリコと呼ぶ。当の日都子の口からヒトリコという単語が出てきたことは、予想外だったようだ。案外こういうことは、言っている当人はばれていないと思っている。一学年五十二人。二クラスしかないような学校じゃ、こちらの耳に入ってくるのだから早い。

「次、山野さん呼んできて」

4 気まずさを無理矢理押しやって、片岡さんは命令する。音楽室に戻るその一瞬、山野さんの成績表が見えてしまった。前回、こうして一人ひとり昼休みの廊下で歌わされたのは先々週のことだった。そのときの山野さんの点数欄には、五点と書いてあった。

音楽室に戻ると、全員で平塚さんの伴奏に合わせて歌っていた。三列目の子達が、戻ってきた日都子に視線を送る。

「次、山野さんだつて」

元の位置に戻り、隣の山野さんに言う。青い顔で、山野さんは日都子の顔を見た。十センチほど身長差があるので、下から



覗き込まれるようになる。

「あの、日都子ちゃん」

懐かしい呼び方をする。

「全部歌った？ 一番も二番も？」

「歌ったよ」

「なんて言われた？」

小学五年生の秋、金魚の一件があつてから彼女は日都子のことを「深作さん」と呼ぶようになった。

「それ、聞いて何になるの」

深作さん。それは、あなたとはもう友達になりませんからという※烙印だつた。当初はそう呼ばれるたびに、胸に針が刺さるようだった。心から血が流れるようだった。それはそれは痛くて、耳を塞ぎたくなつた。

「全員が同じことを言われるなら、一人ひとり呼んで歌わせる必要なんてないでしょ」

けれど、もうあれから四年もたつのである。痛みなんてもう感じない。何度も血を流した心は、硬く強くなつた。

「早く行った方がいいよ。片岡さん、機嫌悪いみたいだから」

前方に聞こえないよう小声でそう言ふと、山野さんは青い顔で廊下へ走つていった。今から思えば、あの子は昔から、周りの子のご機嫌を窺つてばかりだった。離れてから、それがよくわかるようになった。

何か聞きたそうにしている三列目のメンバーの視線を無視して、日都子は合唱に加わつた。絆と愛を、他の子と同じように言葉だけで歌つた。

※キュー婆ちゃん：日都子のピアノの先生。

問1 線 a 「ア」・ b 「ユウショウ」を漢字で正しく書きなさい。

※『春の歌』：ピアノ曲の一つ。

※烙印：消し去ることのできない印。ここでは不名誉な呼び名のこと。

問2

① ④ に入る最も適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし記号はそれぞれ一度しか使えないものとする。

- ア 偉そうに      イ 気まずそうに      ウ 真面目に      エ 激しく      オ さりげなく

## 問3

——線1「普段、限りなくゼロに近くしている心のスイッチを、切る」とあるが、ここで日都子がこのようにしたのはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 合唱コンクールの練習に關してだけはピアノ伴奏者としての意見を聞いてもらいたいの、この場ではいつも以上に片岡さんに対する不平や不満をかくしてご機嫌を取ろうと思ったから。

イ 補欠のピアノ伴奏者という立場の自分がクラスのリーダーである片岡さんに意見を言うのも厚かましいので、この場ではいつも以上に自分の考えを言うのはよそうと思ったから。

ウ 合唱委員の片岡さんに対しては感情的にふるまうのを避けたいので、この場ではいつも以上に自分の本当の気持ちをかくして適当に片岡さんの言葉に調子を合わせようと思ったから。

エ 合唱委員の片岡さんにはクラスメイトの合唱コンクールへのいい加減な気持ちを気付かれないので、この場ではいつも以上にクラスの様子に關しては無関心なふりを通そうと思ったから。

オ クラスメイトのだれに対しても文句を言ってくる合唱委員の片岡さんには腹が立つので、この場ではいつも以上に片岡さんを怒らせるような態度を取って困らせてやろうと思ったから。

## 問4

——線2「三年二組にとって、はなはだ不釣り合いな歌」とあるが、日都子がそのように考えるのはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 『心の瞳』という歌は恋人同士の愛や絆を歌わなければならないのに、三年二組には非常に子どもっぽい生徒が多く、恋愛をテーマとする大人びた歌を理解できるとは思えないから。

イ 『心の瞳』という歌はいつまでも変わらない愛や友情を歌っているのに、三年二組の生徒は今年で中学校を卒業してしまい、これからも友情で結ばれたままではいるとは思えないから。

ウ 『心の瞳』という歌は家族よりも友人の大切さを伝える歌なのに、三年二組には仲間はずれにされている生徒がいるため、このようなテーマの歌を歌う資格があるとは思えないから。

エ 『心の瞳』という歌はピアノが得意な日都子でも歌うのが難しいのに、三年二組は適当に練習している生徒が多く、合唱コンクールまでにハーモニーが完成するとは思えないから。

オ 『心の瞳』という歌は大切な人々との愛や絆をテーマにした歌なのに、三年二組はクラスの生徒の気持ちがバラバラで、みんなが愛や絆を理解して歌っているとは思えないから。

問5 (X)に入る最も適当な語を漢字一字で答えなさい。ただし、体の一部を指す語である。

問6 —線3「心から、ピアノを選んでよかったと思う」とあるが、日都子がこのように思ったのはなぜか。その理由をわかりやすく説明した一文を本文中より抜き出し、最初の5字を答えなさい。

問7 —線4「気まずさ」とあるが、日都子はなぜ片岡さんが「気まずさ」を感じたと思っているのか。40字以内で説明しなさい。

問8 本文全体から日都子はどのような人物と読み取れるか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえクラスメイトからきらわれたとしても、常に自分の本音を正々堂々と主張しようとする自分自身に正直な人物。  
 イ わかり合える友達がなくても前向きな気持ちを保って、クラスメイトの様子を冷ややかに眺めようとしている人物。  
 ウ 自分の意見や考えがクラスメイトと違っている場合は、考えを変えて周囲に合わせようとしてしまうことが多い人物。  
 エ クラスメイトから自分が仲間はずれにされていることに傷つき、少しでも仲間に入れてもらおうと努力している人物。  
 オ 他人に対してはいつも厳しく批判的だが、自分自身には甘い<sup>あま</sup>ため自分の歌やピアノの練習では手を抜こうとする人物。

三 AとDの各文の——線と同じ漢字を使うものをア、エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 呼吸器カンの働きを調べる。

ア カン製はがきで手紙を出す。

イ 病気の母をカン病する。

ウ よい習カンを身につける。

エ カン暖の差が激しい。

B 上司の命令にフク従する。

ア 予習よりもフク習が大切だ。

イ フク班長に立候補する。

ウ インフルエンザの薬をフク用する。

エ フク雑な問題に取り組む。

C 春のようなヨウ気が続く。

ア 毎週月ヨウ日が楽しみだ。

イ 太ヨウの光がふりそそぐ。

ウ ヨウ毛が毛糸の原料となる。

エ 西ヨウの文化を取り入れる。

D 会社をケイ営する。

ア 直ケイ二メートルの円を書く。

イ ケイ験したことを話す。

ウ 父や母を尊ケイする。

エ ケイ気が上向きになる。

問題は、これで終わりです。

